

令和8年3月30日

塚戸小学校学校関係者評価委員会

委員長 古 屋 直 子

委 員 岡 田 昌 志

委 員 清 水 茂 男

委 員 辻 博 明

委 員 三 神 辰 也

委 員 山 本 敦 子

(50音順)

令和7年度 塚戸小学校学校関係者評価報告書

1. はじめに

令和7年度の学校関係者評価アンケートに多くの回答をお寄せいただき、皆さまのご協力に委員一同感謝申し上げます。

令和7年4月、塚戸小学校は新たに125名の新入生を迎え、今年度2学級となったみのり学級を加えた28学級、826名の児童と60名を超える教職員とスタッフの方々にスタートしました。児童数はやや減少しつつあるものの、都内でもいまだ大規模校と位置づけられる児童数となっています。

今年度塚戸小学校は創立150周年を迎え、15,173名が受け継いできた「笑顔」「つながり」「感謝の心」を未来へと繋ぎつつ、「思い描く『未来』を実現しようとする子が育つ学校」を目指し、学校・家庭・地域が一丸となって塚戸小学校の教育活動を推進してきました。子どもたちが主役の周年記念行事も多く催され、主体的に企画する子どもたちが活躍している姿が多く見られる一年となりました。

今年度も、塚戸小学校の更なる教育活動の充実と学校運営改善の一助となることを願い、児童、保護者、地域からご回答をお寄せいただいた学校関係者評価アンケートの集計結果と先生方に実施したヒアリング、各行事や学校公開での様子などをもとに、学校関係者評価委員全員で考察しました。

ここに、令和7年度の塚戸小学校学校関係者評価として報告いたします。

2. 学校関係者評価アンケート調査実施概要と結果

(1) 評価アンケートの案内方法

- ・ 児 童：各クラスの担任の先生から案内
- ・ 保護者：QR コードを記載した紙での案内に加え、「すぐーる」によるアンケートへの協力の呼びかけ
- ・ 地 域：QR コードを記載した紙での案内を配布

※今年度は、保護者や地域向けに、評価の目的や、設問に出てくる言葉や内容の説明についての案内文書も付け加えた。

(2) アンケートの回収方式

- ・ 児 童：Web による回答方式（各クラスでの先生のサポート有）
- ・ 保護者：Web による回答方式
- ・ 地 域：Web によつ回答方式（希望により紙提出による回答方式も可能とした）

(3) アンケートの設問内容について

○児 童：35項目 ○保護者：36項目 ○地 域：12項目

※今年度よりアンケートの構成が見直され、世田谷区共通項目は1項目（児童への設問『学ぶことが楽しい』）のみとなり、各校の教育活動・環境に即した項目を多く含めたアンケートを実施することになった。設問内容については、事前に学校長との協議を経て決定した。

また、昨年度に引き続き、選択式アンケートで回答しきれなかった項目について、自由記述形式の任意アンケートも並行して実施し、選択式では捉えきれない具体的な意見を収集することで、評価の重要な参考として活用した。

(4) アンケートの結果について

以下のとおり、本年度の学校関係者評価アンケートを実施した。集計結果の詳細は、ホームページ掲載の『学校関係者評価アンケート』をご参照いただきたい。

実施対象：5・6年児童、全児童保護者、地域

※地域（学校運営委員・学校支援コーディネーター・民生主任児童委員・TAPの方々・自治会長・児童館長・元PTA会長など）

調査実施期間：令和7年11月11日（火）～11月20日（金）

	5・6年児童	保護者（全児童数）	地域
配布数	238	831	69
回収数	217	446	34
回収率	91%	54%	49%
（昨年度回収率）	93%	(82%)	(41%)

各項目のアンケート結果の数値表に表記された（％）の数値については、
回答A「とても思う」と回答B「思う」の合計→**肯定的回答**
回答C「あまり思わない」と回答D「思わない」の合計→**否定的回答**
としてまとめたものである。

また、数値の増減については、昨年度の同等の設問回答と比較し、
割合が1P（ポイント）以上増加したものは（↑）、
1P（ポイント）以上減少したものは（↓）、
増減が1P（ポイント）未満のものは（→）
とし、昨年度の数値の差をP（ポイント）で記載した。

（ ）の記載の無いものは、今年度内容変更または追加した設問である。
否定的回答の下段の / 以降には、「わからない」の回答割合を記載した。

3. 重点目標について

今年度の重点目標は、以下の3点である。

- ・【感動】 わくわくしながら探究する学び
- ・【共感】 他者の思いや考えを認め合い、尊重し合う学び
- ・【感謝】 社会（人）の役に立つ喜びを実感する学び、人とのかかわりを感じる学び

4. 評価

(1) 学習について

	設問	肯定的回答	否定的回答
児童	「学ぶことが楽しい」	73% (8P)	24% (15P) / 4% (7P)
保護者	「私の子どもは、楽しく授業に参加している」	83% (2P)	11% (1P) / 6% (1P)
児童	「国語の授業は楽しい」	60% (—)	37% (—) / 3% (—)
児童	「社会の授業は楽しい」	69% (—)	27% (—) / 4% (—)
児童	「算数の授業は楽しい」	62% (—)	35% (—) / 3% (—)
児童	「理科の授業は楽しい」	78% (—)	20% (—) / 2% (—)
児童	「英語の授業は楽しい」	72% (—)	23% (—) / 5% (—)
児童	「本を読むことが好き」	67% (—)	29% (—) / 4% (—)
保護者	「私の子どもは、読書が好きである」	55% (—)	43% (—) / 2% (—)
児童	「自分に合った学び方ができるコースに分かれて、算数の授業を受けることで、よく分かるようになると思う」	82% (—)	16% (—) / 3% (—)
保護者	「私の子どもは、家庭では、自分からすすんで宿題等の勉強をしている」	66% (9P)	33% (9P) 1% (—)
保護者	「本校は、学年に応じて、映像やタブレット・教材等を工夫し、分かりやすい授業を行っている」	81% (6P)	11% (—) / 8% (6P)
児童	「家庭での勉強に、タブレット端末を活用している」	59% (—)	32% (—) / 10% (—)

「学ぶことが楽しい」という設問に対し、児童全体の肯定的回答の平均は73%であったが、学年別では、5年生の80%に対し、**6年生は65%**と大きく低下している。特に6年生は否定的回答が32%に達しており、学習内容が高度化・論理化する中で「学ぶ楽しさ」が損なわれている懸念がある。また、保護者アンケートでも同様の傾向が見られた。1年生の保護者の「私の子どもは、楽しく授業に参加している」の設問に対する肯定回答は91%と高水準だが、学年の進行とともに低下し、6年生では79%に留まっている。否定的回答についても、3年生以降5年生までは1年生(4%)の4倍にあたる15%前後で推移している。「私の子どもは、家庭では、自分からすすんで宿題等の勉強をしている」の設問への保護者の肯定的回答は、昨年から9P上がり66%に改善されたものの、否定的回答はまだ33%ある。学びが深まる大切な時期だからこそ、今一度子どもたちが学ぶ意欲を継続して持ち続けられるよう、学校全体で指導の工夫や的確な方向づけをお願いしたい。

「各教科の授業の楽しさ」については、理科（78%）、英語（72%）、社会（69%）が児童からの高い支持を集める一方で、「国語」と「算数」については、否定的な回答が3割を超えており、改善の余地があると言える。「算数」においては、「自分に合った学び方ができるコースに分かれて、算数の授業を受けることで、よく分かるようになると思う」の設問に対し、肯定的回答は82%と高く、個々の理解度に応じた授業の重要さが求められていることがわかるが、「国語」の授業の楽しさを伝える点においては、まだ課題が多くあると考えられる。「家庭での勉強にタブレット端末を活用している」児童は59%とさほど高くはないが、タブレット端末の発達で映像による学びが身近になった反面、自ら文字を書き、読み解く機会は以前よりは減少してきている。このような学習スタイルの変化が、子どもたちの学びに少なからず影響を及ぼしていると考えられる。「本を読むことが好き」である児童も67%とやや低く、否定的回答も29%となっている。「私の子どもは、読書が好きである」の設問への肯定的回答も、1年生は73%あるにもかかわらず、2年生以降は50%を切る学年もある。否定的回答も、1年生では26%だが、2年生以降は40～50%にもなっている。学校も「主体的な学びを生み出す授業～国語の授業改善を通して～」などの校内研修を年間を通じて行い、各学年の児童の苦手意識の高い領域での授業改善に取り組み、常に改善を図っている。「本校は、学年に応じて、映像やタブレット・教材等を工夫し、分かりやすい授業を行っている」の設問に対する保護者の肯定的回答は81%と高く評価されており、このように日頃から研修を重ね、絶えず授業改善に取り組まれている先生方の真摯な姿勢に、深く感謝すると共に、子どもたちの学ぶ意欲が確かなものとなるよう、学校と家庭とが連携しながら、子どもたちにとってより良い改善を進めて行けるとよいのではなかと思われる。

今年度の重点目標である『「感動」わくわくしながら探究する学び』については、概ね達成できてはいるが、まだ少し課題が残る点もある。次年度に向けて、「わかる！」「できる！」「楽しい！」をさらに充実させていただけるよう引き続きの導きをお願いしたい。

（2）世田谷探究的な学びについて

	設問	肯定的回答	否定的回答
児童	「自分で調べたり、解決したりする学習は楽しい」	77%（—）	22%（—） / 2%（—）
保護者	「本校は、自分で調べたり、解決したりする学びの機会を設定している」	79%（—）	11%（—） / 10%（—）
児童	「めあてに向かって最後まであきらめずに、学習に取り組んでいる」	78%（13P↘）	19%（11P↗） / 3%（1P↗）
児童	「考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする学習は楽しい」	63%（—）	35%（—） / 3%（—）
保護者	「本校は、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする学びの機会を設定している」	83%（3P↘）	9%（5P↗） / 9%（→）
児童	「友達の思いや考えを理解しよう（分かろう）としている」	84%（—）	13%（—） / 3%（—）

児童	「友達と話し合って、自分の考えを深めようとしている」	71% (—)	26% (—) / 3% (—)
児童	「話し合いを通して、みんなで決める活動は楽しい」	79% (5P下)	19% (5P下) / 1% (→)
児童	「自分が考えたことを、友達や先生や他の人に伝えようとしている」	66% (—)	31% (—) / 3% (—)
保護者	「私は、『世田谷探究的な学び』の意義を理解している」	41% (—)	35% (—) / 24% (—)
児童	「学校で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」	85% (—)	14% (—) / 1% (—)

「考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする学習は楽しい」の設問や、「自分が考えたことを、友達や先生や他の人に伝えようとしている」の設問に対しては、5年生、6年生ともに肯定的回答が6割に留まり、否定的回答も3割を超える結果となった。話し合いや発表には得手不得手も影響するので一概に評価するのは困難な側面もあるが、「友達と話し合って、自分の考えを深めようとしている」の設問では、5年生が67%、6年生が75%とやや高く、「話し合いを通して、みんなで決める活動は楽しい」の設問では、昨年よりも5P減少したものの79%の肯定的回答が得られている。「友達の思いや考えを理解しよう（分ろう）としている」の設問でも、5年生、6年生とも84%と高評価であった。

この結果から、本校の重点目標である「他者の思いや考えを認め合い、尊重し合う学び（「共感」力）」は着実に定着してきていると言える。この「友達の思いや考えを理解しようとしながら友だちの発表を聞いている自分」と、「自分が発表する際の聞き手の気持ち」が同様であるという重ね合わせからの「安心感」を醸成できれば、発表に対する心理的なハードルがさがり、心の余裕も生まれ、発表学習も楽しめるようになるのではないかと推察される。

学校でこのような学びの機会を設定しているという保護者の認識も8割を超えており、保護者の「世田谷探究的な学び」の意義への理解は4、5割程度ではあるものの、「共感」力や「協働」力に重点を置いていることへの家庭での理解はできているので、家庭においても、子どもたちへの前向きな声かけなどをしていけると更によいのではないかと思われる。

「自分で調べたり、解決したりする授業は楽しい」の設問に対しては、77%の児童が肯定的回答をしており、学校がそのような機会を設けていることに対しても、保護者からは79%という高評価が得られている。「めあてに向かって最後まであきらめずに、学習に取り組んでいる」の設問に対しては、昨年度からは13P下がったものの、児童の78%が肯定的回答をしており、めあてに向かって意欲的に学習に取り組んでいることがわかる。また、「学校で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」の設問に対しては、児童から85%という高評価が得られていることも、世田谷探究的な学びの「未来を自らデザインする意識」が持っていると評価できる。

(3) 生活について

	設問	肯定的回答	否定的回答
児童	「学校のきまりを守って行動している」	82% (—)	14% (—) / 3% (—)
保護者	「私の子どもは、きまり（学校・家庭・地域）を守って生活している」	86% (2P)	12% (3P) / 2% (1P)
地域	「本校の子どもたちは、地域のきまりや交通ルールを守って行動している」	76% (1P)	12% (1P) / 12% (1P)
保護者	「本校は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている」	78% (3P)	13% (3P) / 10% (4P)
児童	「学校の中ですすんであいさつをしている」	74% (17P)	22% (15P) / 4% (3P)
児童	「学校の外でも、知っている人にあいさつをしている」	78% (6P)	19% (4P) / 3% (2P)
保護者	「私の子どもは、地域の方々にあいさつをしている」	63% (3P)	29% (2P) / 8% (6P)
地域	「本校の子どもたちは、自分からあいさつをしている」	47% (3P)	41% (1P) / 12% (4P)

きまりやルールについては、児童・保護者・地域とも8割程度が「守れている」と回答しており、高い評価であった。一方で、3・4・5年生の保護者の回答には15%前後の否定的意見もあり、注視が必要だ。教職員へのヒアリングにおいても、一部の児童の心配な行動があげられた。きまりは「危険から自分の身を守るためのもの」であることを、学校・家庭・地域が一丸となって子どもたちに再認識させ、児童一人ひとりの安全意識を高めていく必要がある。

挨拶については、「学校の中ですすんであいさつをしている」という設問に対し、児童の肯定的回答は昨年度から17ポイント下落し74%となり、否定的回答も、5年生で20%、6年生で25%あった。一方で、保護者の肯定的回答は2年生を除き3～10P程度増加しており、児童と保護者の間で認識の差が見受けられた。地域への「本校の子どもたちは、自分からあいさつをしている」の設問への評価も、年々下がり続けており、1年前と比べ3P、2年前と比べると17Pの下落となった。さらに、地域において「わからない」という回答も12%に達しており、こちらも、1年前と比べ4P、2年前と比べると12Pも下落したことになり、地域とのつながりの希薄さが懸念される。

挨拶は単なるマナーではなく、人と地域を温かくつなぐ大切なコミュニケーションの第一歩である。各学年において「総合的な学習の時間」に地域の方々と関わる機会が設けられており、そこでこの地域の温かさを実感する児童も多いと思われるが、日々の登校を見守ってくれている地域の人たちが日常での一番身近な地域の人であり、保護者も含め児童も毎朝自然に挨拶できる関係性を保ちたいところである。今後も地域の中で学校が中心となり、挨拶を基本として家庭・地域・学校が連携を深めることで、すべての子どもたちが地域社会としっかりつながり、見守られながら成長していける場となることを願う。

(4) 学校行事（運動会・学習発表会・川場移動教室・日光林間学校などについて

	設問	肯定的回答	否定的回答
児童	「学校行事は楽しい」	95% (→)	5% (1P) / 1% (→)
保護者	「私の子どもは、学校行事を楽しんでいる」	96% (1P)	4% (→) / 1% (→)
児童	「学校行事は達成感がある」	89% (6P)	9% (5P) / 2% (1P)
保護者	「私の子どもは、学校行事を通して達成感を感じている」	94% (1P)	4% (1P) / 2% (→)
地域	「学校行事や教育活動の内容は充実している」	100% (→)	0% (→) / 0% (→)
保護者	「本校の高学年の子どもたちは、責任を持って学校行事に取り組んでいる」	91% (3P)	2% (→) / 7% (4P)
地域	「本校の子どもたちは、学校生活や学校行事に一生懸命取り組んでいる」	88% (→)	6% (→) / 6% (→)
児童	「学校行事を通して「人の役に立つ喜び」を感じている。	84% (→)	13% (→) / 4% (→)

「学校行事は楽しい」という設問に対し、肯定的回答は児童、保護者ともに 95%以上と非常に高く、行事を通じた達成感についても、肯定的回答は、児童 89%、保護者 94%と、こちらも非常に高い評価となっている。また、地域への「学校行事や教育活動の内容は充実している」という設問に対しても、肯定的回答が昨年度に引き続き 100%という結果となり、児童・保護者・地域ともに各行事から得られる児童の学びを大切にしている姿勢が伺える。「本校の高学年の児童は、責任を持って学校行事に取り組んでいる」という保護者の評価や、「本校の子どもたちは学校生活や行事に一生懸命取り組んでいる」という地域の評価のどちらもが 9 割という高い評価が得られ、大規模校であるがゆえの難しさもある反面、大規模校だからこそ盛大に行事を行うことができ、そこを惜しみなく支えてくださる学校の苦労や工夫の上に、子どもたちの大きな達成感が得られているといっても過言ではない。このような機会が得られていることに深く感謝申し上げたい。

また、「行事を通して「人の役に立つ喜び」を感じている」の設問への回答も 84%の児童が肯定的回答をしている。1年生の幼稚園・保育園との交流会では、自分より小さな子に優しく教える機会があったり、運動会や学習発表会でも他学年をサポートする子どもたちで溢れていた。塚戸小学校の学校行事は、自己肯定感の大きい醸成に寄与していると高く評価できる。

(5) キャリア教育の充実について

	設問	肯定的回答	否定的回答
児童	「学校生活や学習、学校行事などでは、目標を自分で考え、その実現に向けて努力している」	80% (→)	16% (→) / 3% (→)
保護者	「本校は、キャリア教育で育成する4つの輝度的・汎用能力(①関わる力・役立つ力②自己調整力③やり抜いて解決する力④見通して判断する力)を育て	68% (→)	12% (→) / 20% (→)

者	るために学校行事等の教育活動を工夫している。		
児童	「クラスや学校をよりよくしたいと思っている」	81% (―)	18% (―) / 2% (―)
児童	「クラスや学校をよりよくしていくために、自分の役割を果たしたいと思っている」	79% (―)	19% (―) / 3% (―)
保護者	「私はキャリア教育の意義を理解している」	54% (―)	25% (―) / 21% (―)

「学校生活や学習、行事などでは、目標を自分で考え、その実現に向けて努力している」の設問に肯定的回答をした児童は 80%にのぼり、「クラスや学校をより良くしたい」「そのために、自分の役割を果たしたい」という設問にも、約 8 割の児童が肯定的に回答している。塚戸小学校では「自分の役割を果たす活動」を教育の柱の一つとして大切にしており、上記の結果から、つかどんタイムや異学年交流のつかどん遠足、運動会などの行事を通し、キャリア教育で育むべき力が児童に着実に身についてきていると評価できる。

一方で、「キャリア教育の意義を理解している」の設問に対する保護者の肯定的回答は 54%にとどまっている。この要因は、保護者がキャリア教育の意味を世間一般で用いられている狭い意味での『直接職業につながる教育』と認識している可能性もあり、『世田谷区が推進しているキャリア教育』との認識の相違から生じているのではないかと考えられる。したがって、学校は、学校だよりや保護者会、学校関係者評価アンケートなどを通じて、世田谷区の推進しているキャリア教育がどのようなものであるかをはっきりと説明し、本校におけるキャリア教育の実践と成果をアピールする必要があると思われる。

また、各家庭でも『世田谷区が推進しているキャリア教育』に関心を持ち、その意義について理解を深め、「学校生活や学習、行事などでは、目標を自分で考え、その実現に向けて努力している」の設問に否定的回答をしている2割近くの児童へのアプローチとして、各家庭と学校が連携してフォローし合える体制を整えていくことも重要である。

(6) インクルーシブ教育の充実について

	設問	肯定的回答	否定的回答
保護者	「本校では「関わり合い(グループ活動・異学年交流・地域交流会)を大切にした交流活動の機会がある」	88%(―)	5%(―) /7%(―)
保護者	「本校は、安心して学ぶ機会と場(特別支援学級・すまいるルーム・ほっとルーム・おひさまルーム・個別学習ルーム等)の多様化に努め、個に応じた支援体制の充実を図ろうとしている」	87%(―)	7%(―) /6%(―)
保護者	「本校は、スクールカウンセラーやインクルーシブ教育支援員等と連携して、個に応じた支援体制の充実を図ろうとしている」	80%(―)	8%(―) /12%(―)
保護者	「私の子どもは、友達や他の人のよさを認めようとしている」	88%(―)	9%(―) /4%(―)

保護者	「私は、『インクルーシブ教育』の意義を理解している」	63% (—)	18% (—) /18% (—)
-----	----------------------------	---------	---------------------

インクルーシブ教育の意義に対する保護者の理解度は 63%で、やや低めの数値となっているが、交流活動や安心して学べる機会の確保、学びの場の多様化、そして個に応じた支援体制の充実といった具体的な取り組みについては、80%から 90%近い保護者からの肯定的な回答が得られている。この結果から、本校の整えられた教育環境が保護者にも着実に伝わっていると評価できる。

また、「子どもが友達や他者の良さを認めようとしている」という設問に対しても 9 割近い肯定的な回答が得られた。概念としての「インクルーシブ教育」という言葉の理解にはまだ課題が残るものの、塚戸小学校が推進している具体的な教育活動やその方針については、保護者全体に広く浸透し、高く評価されていると言える。

(7)先生について

	設問	肯定的回答	否定的回答
児童	「先生たちは、あなたのよいところを認めてくれる」	84% (—)	12% (—) /4% (—)
児童	「学校生活でのトラブルや困りごとがあったときなど、先生たちに相談ができ、先生たちは、その解決のために対応してくれる」	81% (—)	13% (—) /6% (—)
保護者	「学校生活でトラブルや困りごとがあったときなど、本校の教職員に相談ができ、教職員は、その解決のために対応している」	77% (→)	15% (1P↘) /9% (1P↗)

教員の児童に対する対応については、児童の 80%以上から肯定的な回答が得られており、非常に高く評価できる。保護者から見た対応の満足度も、昨年度とかわらず 77%であった。2年生、5年生では肯定的回答がやや減少したが、4～6年生では否定的回答が減少している。今年度も実際に教員へのヒアリングを行ったが、どの学年においても一人ひとりの児童に対して丁寧かつ細やかな指導が行われており、常に子どもたちの最善を考え、教育活動をより良くしようという熱意を持った教員が多いことを改めて実感した。

また、昨年度の学校関係者評価において教育委員会に課題として提言した「指導に直接関係のない会計などの事務作業の軽減」についての課題が、今年度改善の方向に動きだし、「より子どもたちの事を考える時間が増える」と教員から喜びの声があがっていた。現場の切実な願いが届き、前向きな改善がされたことに感謝申し上げたい。

一方で、依然として残る環境面での負担については、いくつか早急な改善が必要と思われる。まず、「パソコンでの作業が職員室でしか行えない点」は多くの教員の業務効率を阻害し、大きな負担となっている。授業準備や資料作成、打ち合わせのすべてを職員室内で行わなければならない、他の区や市で見られるような『場所を選ばない柔軟な働き方』や『効率的な業務環境』が整っていないことが、教員にとっての時間的・精神的な大きな負担となっている。次に、「各階にプリンターが設置されていない問題」も業務効率を著しく低下させている。児童の忘れ物や授業中に急遽必要になった資料を

印刷するたびに、遠い職員室まで往復しなければならず、これは先生にとっても児童にとっても「教育時間のロス」であり、大きな負担である。また、「児童用タブレットの充電環境」についても、各教室の備えが不足しがちな現状があり、他教室へ借りに行かなければならないなどの負担も発生している。児童数も多いが、教員数も多いため、このような道具類や文具類も足りているようで足りていない。例えばインクや折り紙なども節約しながらギリギリのところを使用することを迫られ、視覚刺激に要配慮の子にグレーやピンクなどのマーカーを使いたいが、毎回使うだけのものを揃えられないなど、児童一人ひとりのニーズに応じたきめ細やかな支援や創造性を育む活動が制限されかねない状況にある。さらに、昨年度も指摘した「休み時間の校庭等での見守りや係活動などのフォローでの時間の制約」の問題で、教員がトイレに行く時間すら確保できていないという過酷な状況がある。アンケートでは「声をかけてほしい」「困っていることを相談をして解決してほしい」と感じている児童が10%強存在しているが、こうした支援を必要としている子どもたちに教員が「心の余裕」を持って向き合うためには、まず教員自身の心身の休息や心の余裕が不可欠である。

以上の点から、現場の教員が余裕を持って児童に対応できる時間を生み出せるよう、PC 使用の環境整備や必要物品の充実、休憩時間の確保といった物理的な課題を早期に解決することを、教育委員会に強く要望したい。

(8)教育活動全般について

	設問	肯定的回答	否定的回答
児童	「学校生活は楽しい」	86% (3P)	11% (1P) / 3% (1P)
保護者	「私の子どもは、学校生活を楽しんでいる」	89% (1P)	10% (3P) / 1% (4P)
地域	「本校の子どもたちは、学校の内外で、友達と仲良く活動している」	65% (—)	6% (—) / 29% (—)
児童	「運動することが好きで、楽しいと感じている」	79% (5P) /	19% (3P) / 2% (2P)
保護者	「私の子どもは、運動することが好きである」	75% (5P)	25% (7P) / 0% (2P)
児童	「友達や周りの人から感謝されることがある」	82% (8P)	14% (6P) / 4% (2P)
児童	「周りの人に感謝の心を伝えている」	91% (3P)	6% (2P) / 3 (1P)
保護者	「私の子どもは、周囲に感謝の心を伝えている」	70% (2P)	27% (10P) / 4% (7P)
地域	「本校の子どもたちは、周りの人に感謝の心を伝えている」	53% (18P)	29% (16P) / 18% (1P)
児童	「心を許せる友達がいる」	92% (—)	7% (—) / 1% (—)
児童	「困った時に話を聞いてくれる人がいる」	92% (2P)	7% (3P) / 2% (—)

「**学校生活は楽しい**」という設問に対し、児童の肯定的回答は86%、保護者は89%と、共に非常に高い評価となっており、子どもたちが充実した学校生活を送っている様子が伺える。一方で、「本校の子どもたちは、学校の内外で、友達と仲良く活動している」という地域への設問では、肯定的回答が65%に留まり、「わからない」という回答が29%に達した。児童や保護者の中にも1割程度の否定的回答があることを踏まえ、今後は学校・家庭・地域がより密に連携し、子どもたちへの積極的な声かけや見守りを強化していく必要があると思われる。特に地域の「わからない」という回答の多さについては、近年の社会情勢の変化により、地域住民が子どもたちに接する機会が減少していることや、地域全体で子どもを見守るという意識の希薄化が影響していると考えられる。学校での活動を地域に発信し、保護者と地域が繋がりを持つ機会を増やすことで、地域全体で子どもたちを気にかける環境を整えることが大切であると思われる。

「**運動することが好きで楽しい**」と感じている児童は79%、保護者の肯定的回答も75%と、決して低い数値ではないが、高学年の保護者の否定的回答が3割前後に達している点は、看過できない課題である。昨年度との比較で肯定的回答が10P近くも低下しており、特に6年生の否定的回答が昨年度より5P上昇し23%となっている点は懸念される。コロナ禍による活動制限の影響に加え、高学年特有の生活スタイルの変化や中学受験への準備なども背景にあると推察されるが、体を動かすことは心身のリフレッシュや健康維持に直結するので、高学年においても運動の楽しさを再発見できるような機会を、学校生活の中で意識的に作っていく必要があるようだ。校庭での遊び場教室においても、「走り方教室」や「野球教室」、「サッカー教室」、おやじの会の「つかど逃走中」などのイベントが行われている。このような機会や校庭の遊び場開放利用なども広く周知し、どの学年でも運動が好きな児童が増えていくことを願う。

「**周りの人に感謝の心を伝えている**」という設問に肯定的な回答をした児童は91%と非常に高く、「**感謝されることがある**」という項目も82%という高評価であった。全校遠足や、つかどんタイム、学習発表会など、様々な機会です異なる学年交流が盛んに行われ、一人一役の実行委員、運動会の係、6年生のタブレット先生や見守り先生、委員会活動、クラブ活動、掃除の時間など、人の役に立つ喜びや人とのかかわり、人への思いやりの気持ちを感じながら学ぶ機会が日常でかなり多く設けられており、その中で「感謝される喜び」を感じる児童が増え、「感謝を伝える」児童が増えている。このように、児童の間では感謝の交流が十分に行われている一方で、保護者の「**わが子は周囲に感謝を伝えている**」という肯定的回答は70%、地域においては53%に留まっており、大人側からの見え方には乖離があるようだ。児童が身近な友人や児童の間では素直に感情を表現できているものの、大人や社会に対しては表現しきれない可能性も考えられるだろう。一方、「**心を許せる友達がいて、困った時に話を聞いてくれる人がいる**」という問いには、児童92%が肯定的回答をしており、ここにおいては、「**共感**」や「**感謝**」の心が児童の中に着実に育まれていることがわかる。しかし、6~7%の児童が「**心許せる友達がおらず、相談できる人もいない**」という孤独な状況にあるという事実は重く受け止めるべきである。こうした児童のサインを早期に察知し、孤立させないためのきめ細やかな支援を、学校・家庭・地域が一丸となって継続していく必要がある。

(9) 学校からの情報提供について

	設問	肯定的回答	否定的回答
保護者	「本校は、学校公開や行事公開・道徳授業地区公開講座・保護者会等を設定し、子どもの学びの姿や教育活動の様子を伝えている」	93% (1P)	4% (2P) / 2% (→)
保護者	「本校は、わくわくしながら探究する学び(感動)・他者を思いやる考えを認め合い尊重し合う学び(共感)・人の役に立つ喜びを実感する学び(感謝)のある学校の実現」という学校の重点目標を、学校だよりや保護者会等で伝えている	85% (4P)	9% (→) / 6% (5P)
保護者	「本校は、学校だより・ホームページ・すぐる等で、保護者に日常の教育活動等の情報提供をしている」	91% (6P)	6% (3P) / 3% (3P)
地域	「本校は、ホームページや学校だより・学校公開・学校協議会等で、学校の重点目標や子どもたちの様子を地域に伝えている」	76% (7P) /	18% (9P) / 6% (2P)

学校の重点目標や子どもたちの様子、日々の教育活動に関する情報提供については、保護者・地域いずれからも8割から9割を超える高い評価を得ている。学校の取組が家庭や地域に広く浸透し、肯定的に受け止められている結果といえる。引き続き、情報発信のさらなる充実を図り、より多くの目で子どもたちの様子を見守れるように努めていただきたい。

(10) 家庭や地域と学校との連携について

	設問	肯定的回答	否定的回答
保護者	「本校は、地域の人や施設を教育に生かしている」	84% (8P)	7% (1P) / 9% (9P)
保護者	「本校は、地域や保護者と協力した取組(地域で組織する「塚戸安全パトロール(TAP)や避難所運営訓練」・PTAと連携した「集団登校・集団下校」の実施等)を通して、子どもたちの安心・安全を推進している」	91% (6P)	6% (3P) / 3% (3P)
地域	「本校は、地域との連携に努め、地域の活動に協力しようとしている」	59% (→)	41% (→) / 0% (→)
地域	「本校は、生活科・総合的な学習の時間(昔遊び体験・大蔵大根栽培・福祉体験・屋上田んぼの取組)や行事(運動会・学習発表会・150周年記念行事等)で地域の人や施設と連携している」	65% (→)	18% (→) / 18%
地域	「本校は、地域の相談に対して、丁寧に説明・対応している」	35% (→)	35% (→) / 29% (→)

「地域の人材や施設の活用」については保護者から84%という高い評価を得ており、地域資源を効果的に取り入れた教育環境が整備されているといえる。特に、児童の安心安全を確保するための保護者との協力体制は91%に達しており、安全面での連携が極めて強固であると言える。一方で、「生活科や総合的な学習の時間、学校行事といった具体的な教育活動」での連携については、地域からの肯定的回答が65%に留まっている。実際には、生活科の学習「まち探検」に付き添ってくださるTAPの方々、読み聞かせを行う山の木文庫の方々、雅楽や弦楽器などの体験授業を行う保護者ボ

ランティアサークルおたまじゃくしの方々、屋上の田んぼの米作りや稲刈り・脱穀体験授業を行う上祖師谷郷土研究会の方々、学校運営委員会、学校支援本部の方々などの多くの地域の方々が、児童の学びへの協力を惜しまず支えてくださっている。なかよしフェスタ、まち探検、サバイバルキャンプ、交通安全教室、つかどまつり、夏休みのラジオ体操などにおいても、地域の方々、児童館、消防署、警察署、PTA、おやじの会など、様々な大人が学校に集い、協力してくださっているが、地域の関わっている教育活動を地域全体が把握しきれていない可能性もある。保護者からの高い評価に対し、地域からの肯定的回答の低さという認識の乖離を放置してしまうと、地域とのよい関係性が崩れかねない。このあたりの情報共有はホームページや学校だよりでもなされているが、活動の様子を地域全体で共有し、子どもたちの学びに寄り添っていただくためには、地域との連携にもう一工夫が必要だと感じる。

このような情報共有が行き届いていないことが影響しているとも考えられるが、「**学校側が地域の活動に協力しようとする姿勢**」については地域からの否定的な回答が 41%と高く、地域貢献の積極性にも課題を残している。特に「**地域の相談に対する説明や対応**」に関しては肯定と否定が 35%で拮抗し、わからないという回答も 29%に及んでいる。これは学校側の対応が地域住民に十分に浸透していない、あるいは対話の機会が不足している現状を反映しているのではないだろうか。今後は、地域に対し丁寧な情報発信と双方向のコミュニケーションを強化することで、地域とともに歩む学校運営を確立していくことを期待する。

(11) 学校の安全性について

	設問	肯定的回答	否定的回答
保護者	「本校は、避難訓練や防災教室・交通安全教室・情報リテラシー教室・薬物乱用防止教室・いのちの安全教室・食育等の学習を実施することで、子どもたちの安全教育を推進している」	89% (3P)	6% (2P) /5% (→)
地域	「本校は、避難訓練や防災教室・情報リテラシー教室・薬物乱用防止教室・いのちの安全教室・食育等の学習を実施することで、子どもたちの安全教育」	71% (一)	12% (一) /18% (一)
地域	本校は、地域や保護者と協力した取組(地域で組織する「塚戸安全パトロール(TAP)や避難所運営訓練・PTA と連携した「集団登校・集団下校」の実施等」を通して、こどもたちの安心・安全を推進している」	94% (一)	0% /6%
保護者	「本校は、災害時や緊急時の対応について、保護者会や学校だより等でその内容を伝えている」	90% (10P)	7% (3%) /3% (7%)
保護者	「本校は、食材や献立の工夫、丁寧なアレルギー対応等に努め、安心・安全な給食を提供している」	93% (一)	2% (一) /5% (一)
保護者	「本校は、校舎の環境整備や美化に努め、安心・安全性を高めている」	85% (一)	10% (一) /5% (一)

「避難訓練や防災教室・交通安全教室等々の実施を通じた安全教育の推進」については、保護者の 89%、地域の 71%から肯定的回答を得ており、学校の取り組みは着実に浸透していると言える。特に、「地域や保護者と協力した塚戸安全パトロールや避難所運営訓練・PTA と連携した集団

「登校・集団下校等の実施による安心安全の推進」については、地域の94%という極めて高い指示を得ており、学校・家庭・地域の3者が一体となった見守り体制が非常に強固に構築されている。

「災害時や緊急時の対応に対する情報発信」については、保護者会や学校だよりなどを通じて継続的な周知をすることで、保護者の肯定的回答が昨年より10P増加して90%に達した。適切な情報発信が、有事の際の連携体制に対する信頼を深め、各家庭における安心感が向上した結果であると考えられる。

「給食運営」においては、食材の選定や献立作成、丁寧なアレルギー対応に努めており、保護者から93%の高い評価を得た。また、校舎の環境整備や美化活動についても85%が肯定的であり、児童が安全かつ快適に活動できる教育環境の維持、向上に一定の成果を上げていると言える。

5. 学校関係者評価委員会としての総評

本年度も昨年度に引き続き、学校・保護者・地域、それぞれのご理解とご協力により、多くの子どもたちが豊かな学校生活を過ごすことができました。教育活動に対する保護者の肯定的回答も84%に達しており、学校運営全般に対して高い満足度と信頼が得られています。児童の「学校生活は楽しい」という回答も86%、保護者の回答も89%の肯定的回答が得られており、極めて高い評価を得ていました。150周年を迎えた伝統校・大規模校という特性を活かしつつ、一人ひとりの児童が充実した日々を過ごせる教育環境が概ね構築されているといえます。特に、学校行事に対する評価は圧倒的であり、児童・保護者ともに95%以上が肯定的回答を寄せています。行事を通じた達成感や「人の役に立つ喜び」の醸成により、自己肯定感を高める大きな教育的成果が得られています。一方で、今回の保護者アンケートの回収率が昨年度から28ポイント下がり、54%に減少してしまったことは課題として捉えています。より精度の高い評価を学校運営に活かしていくためにも、次年度以降、このアンケートの意義をより明確に伝え、回収率を高める必要があると考えます。

学習面においては、世田谷区が推進する「探究的な学び」が児童の中に着実に浸透しており、「学校で学習したことが、将来、社会に出たときに役に立つ」と考える児童が85%に達している点は、将来に向けての学びの目的意識を明確に持っているといえます。一方で、学年が上がるにつれて学びの意欲が低下する傾向が顕著となっており、看過できない課題の一つにあげられます。「学ぶことが楽しい」とする児童は5年生では80%を維持しているが、6年生で65%に低下し、否定的回答が32%に達している結果は注視すべき点です。保護者のアンケートでも、1年生の保護者の肯定的回答は91%と高評価だが、学年の進行とともに減少していき、6年生では79%にとり、3年生以降5年生までは、否定的回答が1年生(4%)の4倍にあたる15%前後出ている。学習内容の高度化などに伴う意欲の低下を防ぐため、各学年の成長に合わせた好奇心を育む工夫に加え、一人一人に寄り添った丁寧な教育環境が、今後さらに豊かなものへと育っていくことを願っています。

また、教科別では、算数において「自分に合った学び方」を82%の児童が肯定しており、個々に適した学びが学習したことの理解を深める上で非常に大きな効果があるとわかりました。対して国語は、算数と並び教科の「授業が楽しくない」という否定的な回答が3割を超えています。学校も校内研修を年間を通じて行い授業改善に取り組んでいますが、家庭とも連携しながら学びの環境を整える必要があると思われます。低学年で高かった読書への意欲が中学年以降で急激に低下する傾向も

改善していきたい課題です。全ての児童が学びながら「わかる！」「できる！」「楽しい！」をさらに充実させていけることを期待します。

児童の人間関係や社会性の面では、重点目標である「共感力」の定着が見て取れます。「他者の思いや考えを理解しようとする」姿勢に84%が肯定的であり、互いを認め合う土壌が既に形成されているようです。しかし、この内面的な共感力が「挨拶」という外向的な行動に十分に結びついていない点は若干課題が残っていると言えます。児童の自発的な挨拶は昨年度から17P 下落し、地域からの評価も年々低下の一途をたどっています。挨拶を単なるマナーではなく、地域社会との繋がりを確認する共生の第一歩として学校・家庭・地域が協働し、児童を促していく必要があると思われま

す。安全・安心の確保については、地域・保護者との連携が極めて強固にあります。地域や保護者と協力した塚戸安全パトロール(TAP)や避難所運営訓練・PTAと連携した集団登校・集団下校等の実施による安心安全の推進の取り組みに対する地域の肯定評価は94%と非常に高く評価されています。災害時対応の情報発信についても、保護者の満足度が昨年より10P 上昇して90%とという高評価でした。給食のアレルギー対応や校内美化への評価も高く、児童が安心できる環境が適切に維持されていると言えます。

しかし、この児童の環境を支える教員の勤務環境には看過できない課題があげられました。教員に対する児童の信頼度は80%を超え、その熱意と指導力は高く評価されています。しかし、授業の準備や打ち合わせなどのPC作業を職員室以外では行うことが不可能であったり、プリンターの設置数や配置場所の課題、物品購入などの予算不足、休憩時間の欠如といった環境面での負担が、教員が児童一人ひとりと向き合う「心の余裕」を削ってしまっている状況にあります。教員が健康で活力を持って指導に当たることは、教育の質に直結します。事務作業の軽減のみならず、物理的な作業環境の改善を教育委員会へ強く要望いたします。

総じて、塚戸小学校には、探究心と共感力、感謝の心を備えた児童を育む豊かな土壌がつくられています。今後は、高学年における学習意欲の維持、読書習慣の確立、地域と繋がる挨拶の活性化を課題とし、教員の環境改善を土台とした「さらなる質の向上」を目指していただくことを願います。地域と共に歩み、児童が「未来を自らデザインできる力」を育むため、本評価結果をもとに改善がされた教育活動を次年度以降も展開していただけることを心から願っています。